

大口町の都市公園
堀尾跡公園

ひとと歴史をしのび、
新しい文化を
はぐくむ「舞台」です。

裁断橋ものがたり

だれもが聞いたことのある
裁断橋のものがたり。
郷土の人々の慈愛と偉業をたたえる
堀尾跡公園は、
水と緑を十分に生かした
みんなのリフレッシュ空間です。



裁断橋と姥堂

天正 じゅうはちねん 二月
てんしやう 十八ねん 二月
じゅうはちにち 小田原への
十八日にをだはらへの
ご 陣 堀尾 金 すけと
御ちんほりをきん助と
いっしゅうはちになつた
申十八になりたる子を
出産 させられた。もつこの世では二度
た、せてより又ふため
とも見ざるかなしさの
あまりにいまこのはし
をかけるの母の
身には涙の種と
もなりそくしんしやう
ふつし給へ
逸 成 俊(金助の法名) どのち
いつかんせいしゆんと後
の世のまた後 までこの
のよの又のちまで此
かきつけを見る人は
念仏 念給へや卅三
年のくやう也

裁断橋・擬宝珠の銘文

●これは、金助の母が元和8年に行った2度目の裁断橋改架の際に、擬宝珠に刻まれた文章です。「成尋閣梨母の集」「野口英世の母の手紙」となつて日本母の三名文のひとつに数えられています。



裁断橋に設置された擬宝珠の複製

ステージ文字書(写真左から)
雅(上品で優美なこと)宴(楽しみなこと)
舞(感情や状況を順序だてて表現すること)
会(多くの人の出会う場であること)
ミュージカルや演芸会などに利用できます。

湧水が設けられた公園のシンボル。水遊びができるカナル段滝へと続きます。

公園の中心となる、郷土の歴史と人の心を養える広場です。

裁断橋の歴史

参考文献「熱田裁断橋今昔資料展」「熱田裁断橋物語」裁断橋にまつわる金助と母の物語は「紙のかぶと」の題名でも親しまれています。

天正 六年(1599) 「熱田講式」に裁断橋の名が初出
天正 八年(1599) 金助出陣、同年戦没
天正 九年(1599) 金助の母、裁断橋を架け替へ
元和 七年(1621) 金助の三十三回忌にあたり、母二度目の架け替えに着手するが、同年御供所にて没
元和 八年(1622) 金助の母の養子となつた安藤頼石衛門、遺志を継いで完成、擬宝珠に母の銘を刻む
寛文 九年(1669) 裁断橋架け替へ。その後、不明の期間をはさんで数度にわたり架け替えが行われる

天正十八年(1599)二月十八日、堀尾金助は御供所を出発し、小田原征伐に加わりました。金助はこの時十八才で初陣しました。金助の母は祈願をかねて、当時熱田神宮付近にあった裁断橋まで見送りましたが、その願いもむなししく同じ年の六月、金助は戦死してしまいました。金助の死に嘆き悲しんだ母は、金助との別れの場となった裁断橋が古くなっていったことを思い出し、その改修のために私財をなげうつことを決心しました。人助けにもなり、わが子の供養にもなると考えたのです。天正十九年のことでした。母は元和八年(1622)にも二回目の改修工事に取り組みましたが、その完成を見ることなく永眠しました。その後、幾度も架け替えが行われた末、川の埋め立てにともなつて橋は取り壊されました。昭和二十八年には三分の一の大きさで復元されましたが、平成四年にはそれも撤去されました。そして平成八年、金助の母が二回目に建立した裁断橋が、母子の出生地・大口町に百年以上を経て忠実に再現されたのです。

- ① 大口町・松江市 姉妹都市提携記念(エドヒガン)
- ② 愛知さくらライオンズクラブ 結成記念植樹(八重桜)
- ③ 堀尾跡公園完成 記念植樹 松江市寄贈(つばき)
- ④ 堀尾跡公園竣工 記念植樹 島根県広瀬町寄贈(嚴倉寺四季桜)
- ⑤ 堀尾跡公園完成 松江湖城LC姉妹提携記念植樹
- ⑥ 松江開府の祖 堀尾吉晴公を称える記念植樹 松江観光協会
- ⑦ 創立記念 丹羽青年会議所(しだれ桜)

自由に散策できる芝生広場。お茶会にも利用できます。

公園の概要

公園名 / 堀尾跡公園(ほりおせきこうえん)
所在地 / 愛知県丹羽郡大口町堀尾跡一丁目地内
敷地面積 / 0.75ha

施設の種類

- 桜の広場
洋風あずまや1基 カナル1式
みかげ石により桜模様舗装 80㎡
- 裁断橋広場
裁断橋(復元)幅5m×長さ23m 1橋
堀尾堀(漆喰壁)高さ2.3m:63m 門(姥堂)1宇
案内板(尾張名所図会)1基 常夜灯4燈 小水車3基
- 野外ステージ野点広場
ステージ・観客席 400㎡ トイレ1棟
和風あずまや1期 投句記載台2基 句碑4基

大正十五年(1926) 裁断橋が架かっていた精進川埋め立て。擬宝珠を残して橋は取り壊される
昭和八年(1933) 裁断橋を三分の一の大きさに復元
昭和四八年(1973) 擬宝珠、名古屋市文化財に指定される
平成四年(1992) 擬断橋を撤去
平成八年(1996) 大口町堀尾跡公園に、金助の母が二度目に架け替えた裁断橋が復元される



堀尾氏邸宅跡(石碑)

八剱社を中心とした五条川左岸(南側)は、堀尾吉晴公をはじめとした堀尾氏累代の邸宅跡とされています。堀尾氏は戦国時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の「三英傑」に仕え武功をたて、出雲・隠岐 24 万石を領し、松江城とその城下町を築きました。



堀尾金助と母の銅像

郷土に伝わる母子慈愛の物語「裁断橋物語」に登場する堀尾金助とその母の銅像が、堀尾氏邸宅跡の石碑に隣接して建っています。



拝殿

文久3(1863)年に再築されたもので、明治35年に修理を受けていますが当初の部材を比較的よく残しています。彫刻は妻側に竜と唐獅子、桁間に狩猟図や騎旅図など何かの古事・物語の状況が展開されています。



八剱社

創建年代は不明ですが、堀尾氏が守護神として祀るため創建されたと言伝えがあり、古くから氏神として地元の方々に祀られています。



桂林寺

文明16(1484)年、長楽寺という名前で創建されました。永禄12(1569)年、戦乱でお堂が焼失し、江戸時代の寛永年間もしくは正保年間(1624~1648)に龍巖という僧により、桂林寺と名前が改められ再建しました。



供養塔

大口町堀尾史蹟顕彰会により建立された供養塔です。正面右側：金助とその母の供養塔(昭和46年建立) 左側：堀尾吉晴公の供養塔(昭和47年建立)

堀尾跡公園周辺は、堀尾氏ゆかりの地です。昔は御供所村と呼ばれていました。八剱社では、11月に熱田神宮に「献穀」の行事が執り行われます。この行事は新米20kg×5袋に玉串代を添えて、奉納するもので、地名「御供所(ごごしよ)おんそなえどころ」の由来となりました。

堀尾跡公園 周辺マップ



国宝・松江城天守 (島根県松江市)

大口町 歴史民俗資料館

堀尾氏に関する展示を見たいなら...



大口町健康文化センター
ほほえみプラザ 3階
大口町歴史民俗資料館
(生涯学習課)

住所/愛知県丹羽郡大口町伝右一丁目35番地
休館日/月・火・水曜日
※企画展開催中及び、小中学校の長期休暇中の水曜日は開館します。
※祝日は開館
開館時間/午前9時から午後5時
入館料/無料

☎0587-94-0055

堀尾跡公園から五条川沿いに
北東方向へ車で約10分



きんすけくん



便利な大口町コミュニティバスをご利用ください。
携帯電話からバス時刻表が簡単にアクセス!
問合せ先 大口町役場 維持管理課 ☎0587-95-1615
バスの問合せ先 町民安全課 ☎0587-95-1966



八剱社裏のパワースポット

八剱社裏の石垣の一部(角側)がパワースポット(気場)になっていると言われています。感じ方は人それぞれ。清々しい気分を味わってください。(大口町太極拳協会)

島根県松江市と姉妹都市提携

平成27年7月8日、松江城天守が国宝に指定されました。それを機に、松江城を築城し松江開府の祖とされる大名・堀尾吉晴公の生誕地が大口町という縁で、同年8月29日に松江市との姉妹都市提携調印式がおこなわれ盟約書が交わされました。



堀尾吉晴公銅像 (松江城大手前広場)

堀尾氏略系図
堀尾泰晴 — 吉晴 — 忠氏 — 忠晴
金助